

東北

岩手県

都道府県のPDCAサイクル確保に向けた活動の関連資料

PDCA サイクル課題 1

岩手県 緩和ケアテレビカンファレンス

木村祐輔¹⁾、長澤昌子²⁾、星野 彰³⁾、平野拓司⁴⁾、村上雅彦⁵⁾、佐藤 一⁶⁾、
遠野千尋⁷⁾、小原 眞⁸⁾、村上和重⁹⁾、鴻巣正史¹⁰⁾、鈴木 雄¹¹⁾、坂本 隆¹²⁾

岩手医科大学 緩和医療学科¹⁾、岩手医科大学 高度看護研修センター²⁾、
岩手県立中部病院 緩和ケア科³⁾、岩手県立磐井病院 緩和医療科⁴⁾、
岩手県立大船渡病院 緩和医療科⁵⁾、岩手県立釜石病院 外科⁶⁾、
岩手県立久慈病院 外科⁷⁾、岩手県立千厩病院 外科⁸⁾、岩手県立中央病院 外科⁹⁾、
岩手県立宮古病院 外科¹⁰⁾、岩手県立胆沢病院 外科¹¹⁾、岩手県立二戸病院 外科¹²⁾

岩手県緩和ケアテレビカンファレンス



岩手県 緩和ケアテレビカンファレンス



概要 いわて情報ハイウェイを活用した、多職種参加型の遠隔テレビ
会議システムによる緩和ケア学習会の開催

(毎月第3月曜日18:30-19:30、11回/年)

※2008年9月より開始



目的 県内の医療従事者における緩和ケアの知識・技術の向上。

- ≡ 多施設、多職種間の意見交換による情報の共有化。
- ≡ 多面的・多層的なアセスメントや意見交換による対象理解の深化、
有益な支援方法の検討。
- ≡ 多施設、多職種間の信頼関係の醸成



岩手県緩和ケアテレビカンファレンス



テレビカンファレンスの実際（事例検討） 3

内容

参加11施設が持ち回りでカンファレンスを主催。
事例検討、調査結果、最新の情報共有、講演などを行う。



事例提示
(15-20分)



各施設内のディスカッション
(15-20分)



全施設における意見交換
(15-20分)

岩手県緩和ケアテレビカンファレンス



テレビカンファレンスの実際（講演会） 4

有賀悦子先生 『End of lifeと医療倫理』



岩手県緩和ケアテレビカンファレンス



2015年度 テーマとディスカッションポイント

5

回	テーマ	主催施設	日時
66	がん性疼痛による体動困難患者に対して、多職種で関わり、在宅移行した一例	県立 二戸病院	2015/4/20
67	緩和ケアにおけるチーム医療を考える（その後）	県立 大船渡病院	2015/5/18
68	「何もしたくない」と訴える患者の支援とスタッフのジレンマ 腹膜偽粘液腫によるがん性腹膜炎の1例を通して	県立 中央病院	2015/6/15
69	End of lifeと医療倫理	岩手医大 附属病院	2016/7/10
70	本人の希望にどう寄り添うか （本人、家族、スタッフそれぞれの思いのずれ）	県立 磐井病院	2015/9/14
71	病気を抱えながら、生活を維持するために ～求められる支援を考える～	県立中部病院 ホームケアク リニックえん	2015/10/19

岩手県緩和ケアテレビカンファレンス



2015年度 テーマとディスカッションポイント

6


回	テーマ	主催施設	日時
72	家族の希望を尊重し、全てを告知できなかった患者の退院調整	県立 釜石病院	2015/11/16
73	下咽頭癌・頸部リンパ節転移・食道癌・胃癌を併発している患者の疼痛コントロール	県立 千厩病院	2015/12/21
74	窒息への不安が強い患者への関わり	県立 胆沢病院	2016/1/18
75	医療資源の認知、連携、活用の重要性を認識した歯肉癌の1例	県立 宮古病院	2016/2/15
76	緩和的ストーマ造設をした患者の症例を振り返る	県立 久慈病院	2016/3/14

岩手県緩和ケアテレビカンファレンス






岩手県 緩和ケアテレビカンファレンス 2015年度の総括及び次年度への改善点

総括

-  2015年度は、別表のごとく11回のカンファレンスを開催した。参加人数は1481名（前年度1298名、+188名）と増加した。各回とも密度の濃いディスカッションが行われ、本会の目的である、県内の医療従事者における緩和ケアの知識・技術の向上に寄与しているものとする。

次年度への改善ポイント

-  2016年度も、年11回の開催を目指す。
-  関係医療施設や部署に広報し、より多様な医療者の参加を促す。
-  参加者へのアンケートを実施し、本会の内容、進め方等について意見を集約する。本会が有する課題を明らかにし、その解決を図ることによって、本邦において他に例を見ない規模で継続されてきた本会をさらに発展させる。

岩手県緩和ケアテレビカンファレンス



2016年度 テーマとディスカッションポイント

回	テーマ	主催施設	日時
77	今後について それぞれ異なる治療を希望する患者、家族との関わりから	県立二戸病院	2016/4/18
78	希望は変化する ・ 医師との連携による訪問薬剤管理指導 ・ 初回往診から外来受診まで	県立大船渡病院	2016/5/16
79	転移性脊髄圧迫症候群に対する緊急放射線治療と岩手医大骨転移カンファレンスの現在	岩手医大附属病院	2016/6/20
80	東北大学病院における緩和ケアの現状	岩手医大附属病院	2016/7/11
81	本人の思いとのずれに悩む妻 本人の希望しない治療を「やってあげたい」と思う妻の葛藤	県立磐井病院	2016/9/12

岩手県緩和ケアテレビカンファレンス



2016年度 テーマとディスカッションポイント

9

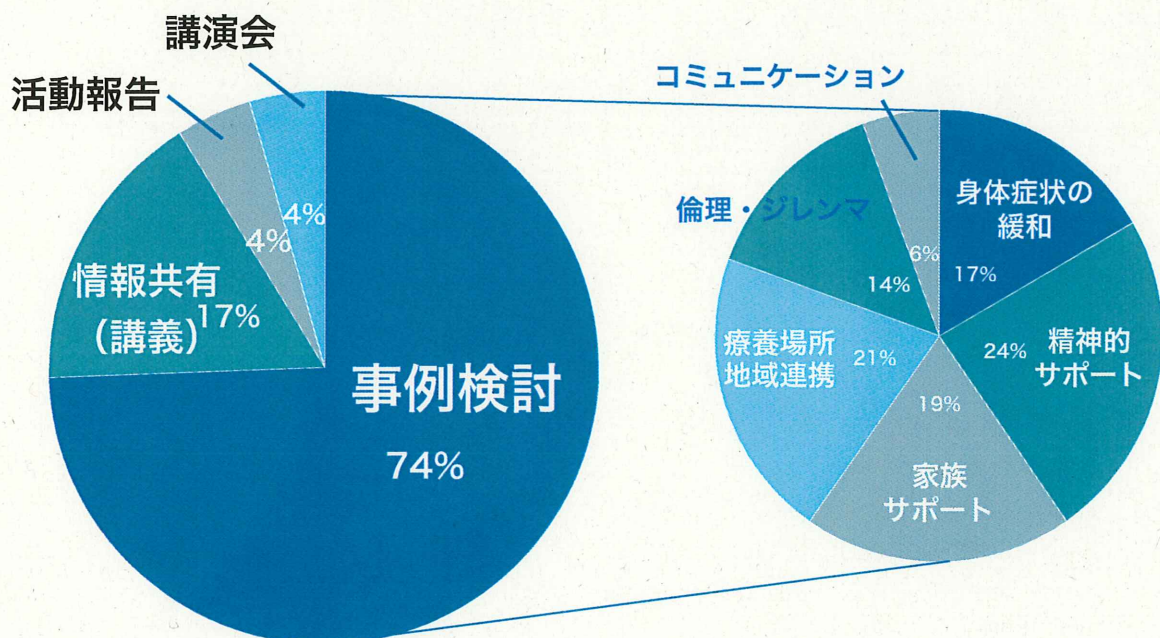
回	テーマ	主催施設	日時
82	チームで支援しながら患者の意思決定を支えた一事例	県立中央病院	2016/10/17
83	独居の高齢者で化学療法を希望するがん患者さんをどうやって支えていくか？	県立中部病院	2016/11/21
84	つらさを表出しない患者への効果的なアプローチの検討	県立釜石病院	2016/12/19
85	患者と家族の病状認識 理解の相違に苦慮した一例～関係が円満でない夫婦への関わり～	県立千厩病院	2017/1/16
86	認知症せん妄症状のある患者への看護—その人らしさをささえる—	県立胆沢病院	2017/2/20
87	家族が急変時心肺蘇生を希望した進行胃癌の1例～患者や家族が緩和ケアを認知する時代において心肺蘇生は希望受け入れの行為となりえるのか～	県立宮古病院	2017/3/13

岩手県緩和ケアテレビカンファレンス



2008-2016 テレビカンファレンスの実際

10



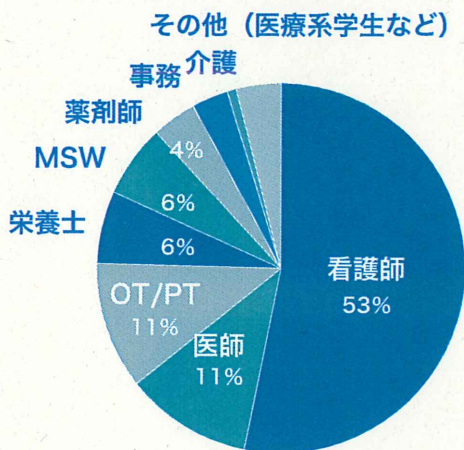
岩手県緩和ケアテレビカンファレンス



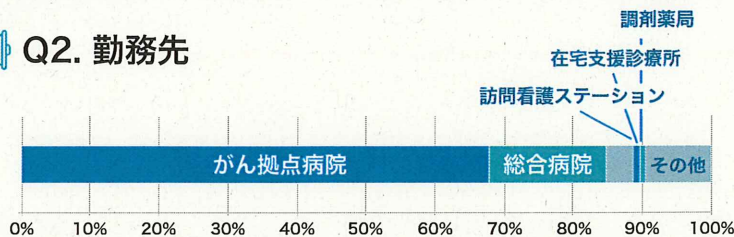
2016年度参加者アンケート結果 (有効回答数：122)

11

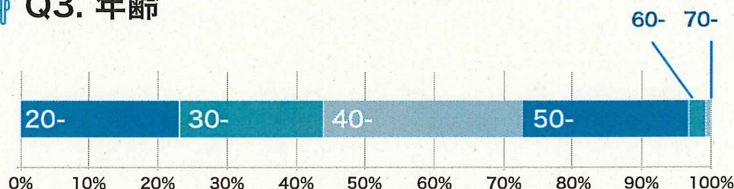
Q1. 職種



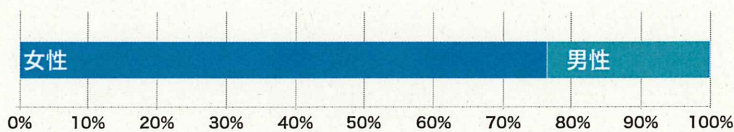
Q2. 勤務先



Q3. 年齢



Q4. 性別



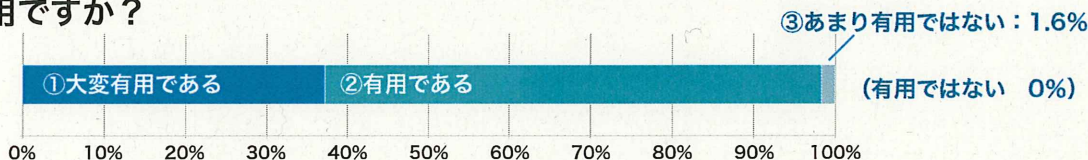
岩手県緩和ケアテレビカンファレンス



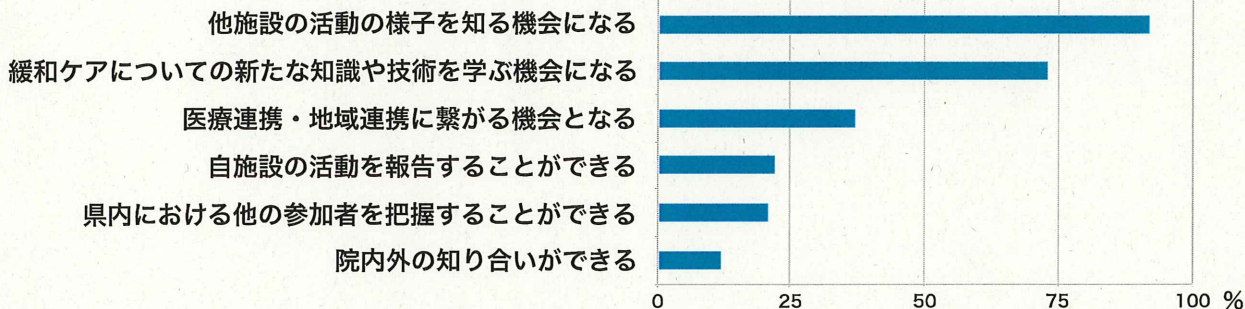
2016年度参加者アンケート結果 (有効回答数：122)

12

Q5. 緩和ケアテレカンファレンスは、あなたの緩和ケアの学びにとって有用ですか？



Q6. Q5で①、②と答えた方で、有用と思われる点を教えてください (重複あり)



Q7. Q5で③と答えた方で、有用ではないと思われる点を教えてください (重複あり)

新たな技術・知識の獲得につながらない：2件
医療連携・地域連携につながらない：1件

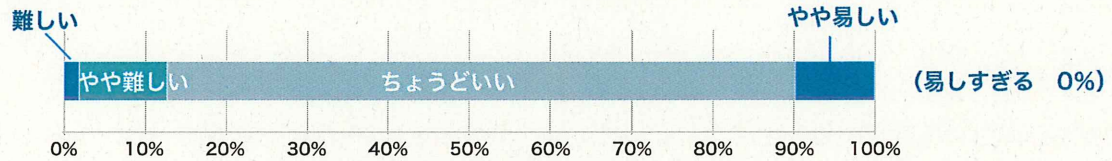
岩手県緩和ケアテレビカンファレンス



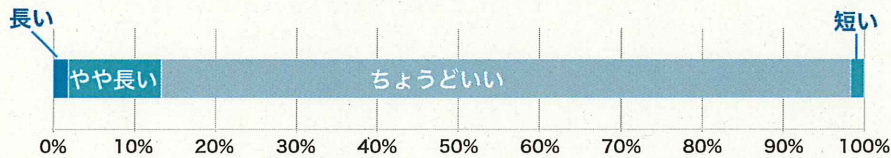
2016年度参加者アンケート結果 (有効回答数：122)

13

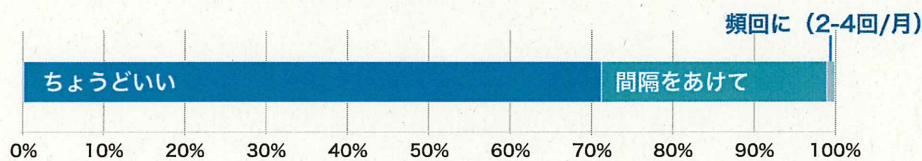
Q8. 緩和ケアテレカンファレンスの難易度は？



Q9. カンファレンス時間（1時間）の長さについて



Q10. カンファレンスの開催間隔（現在1回/月）



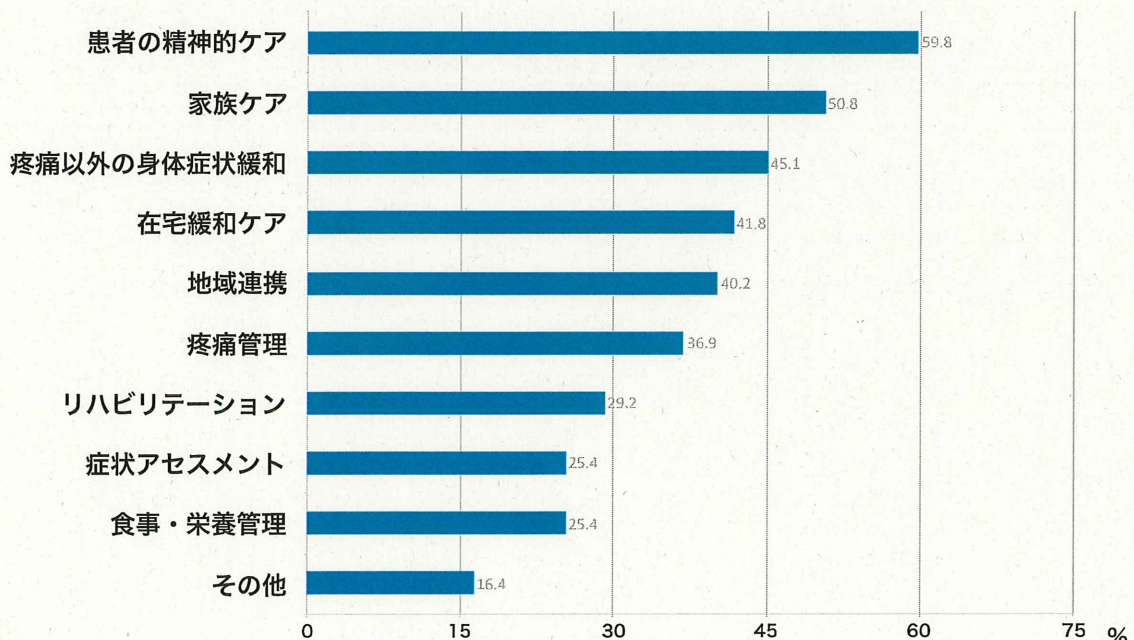
岩手県緩和ケアテレビカンファレンス



2016年度参加者アンケート結果 (有効回答数：122)

14

Q11. 今後期待するカンファレンスのテーマは？（重複あり）



岩手県緩和ケアテレビカンファレンス



岩手県 緩和ケアテレビカンファレンス 2016年度の総括及び次年度への改善点

総括

- 2016年度も、別表のごとく10回のカンファレンスを開催した。参加人数は1310名（前年度1481名、-171名）と若干減少した参加者へのアンケート結果からは、医療系の学生（医学生、看護学生、リハビリテーション学生他）を含め、様々な職種の方々にご参加いただいております。参加された方の満足度も高く、本会の構造（内容、時間、開催回数等）も支持されているものと考えられる。

次年度への改善ポイント

- 2017年度も年11回の開催を目指す。
- 関係医療施設や部署に広報し、より多様な医療者の参加を促す。
- 事例検討については、これまで通り各施設持ち回りによる提示をお願いし、講演会については、アンケートから得られた要望の高いテーマを中心に取り上げることで、参加者の学習効果・意欲を一層高めたいと考える。



(参考) テレビカンファレンスの実際 (参加状況)



参加者の職種

